

せいきょう連ニュース

岡山県生活協同組合連合会 TEL : 086-230-1315 HP : <http://okayama.kenren-coop.jp/>

生協の社会的取り組み特集

6年目を迎えた学校出前授業『南極クラス』



吉備中央町立吉備高原小学校にて



岡山県学校生協

2011年12月にスタートした「南極セミナー」も今年で6年目。9月には吉備高原小学校にて26回目の開催を迎え、これまでに合計2,415名の参加がありました。現在は出前授業『南極クラス』として内容も充実、「本物が体験できる」授業として先生や子どもたちから大好評。子どもたちは、約2万年前の南極の氷が解けるときの「シュワシュワッ」という感動の音に、「わぁスゴイ！南極に行ってみたい！」と大歓声。この出前授業が岡山モデルとして全国に波及。各地の教育団体、学校生協が主催者となり、協力：国立極地研究所、協賛：ミサワホームで開催する出前活動が「教育支援プログラム」として評価され、経済産業省後援の2013年度キッズデザイン賞を受賞しました。子どもたちが「本物を体験」することで、将来に明るい希望と夢をもって元気に成長してくれるきっかけとなれるよう、引き続き教育支援活動を続けていきます。



三井生協家庭会チャリティバザー 玉野市に寄付



三井造船生協

第38回三井生協家庭会チャリティバザーが10月15日（土）10時より、三井生協家庭会の主催で、玉野レクセセンターにて開催されました。気持ちの良い秋晴れの中、多くのお客様が来場され、タオル、洗剤、食器、衣料品などのバザー品を購入して頂きました。

第37回までの累計寄付金は1,765万になっています。今年も「三井生協ふれあいまつり」で実施する

ミニチャリティーバザーでの収益金と合わせて全額玉野市に寄付し、社会福祉事業の活用に役立てていただきます。



スペシャルオリンピックス日本「岡山」 ボランティア活動と防災体験プログラム



スペシャルオリンピックス日本「岡山」陸上競技会

※スペシャルオリンピックス（SO）は知的発達障害のある人たちに、日常的なスポーツ・トレーニングとその成果の発表の場である競技会を年間通じて提供し、社会参加を応援する国際的なスポーツ組織です。

また、県内各地で開催している防災体験プログラムは、生活協同組合の社会的取り組みとして実施しています。

岡山県労済生協（全労済岡山県本部）

全労済の50周年、NEXT50を機会に参画をはじめたSON（スペシャルオリンピックス日本）・岡山の地区大会へ社会的な取り組みとしてボランティアスタッフ参加しています。

2016年10月10日（月）に開催されたSON・岡山の地区大会陸上競技に5名のボランティアスタッフが参加しました。



防災体験プログラム

おかやまコープと岡山県が「包括連携協定」を締結

おかやまコープ

おかやまコープは7月20日、岡山県と地産地消の推進や安全・安心の確保などに取り組む「包括連携協定」を結びました。この協定は、相互の連携を強化し、お互いの資源を有効活用し、地域の活性化や県民サービスの向上を図るのが目的です。連携内容は、地産地消の推進、地域の安全・安心、高齢者および障害者の支援、子育て支援、環境保全、災害対策など8項目です。

おかやまコープが「包括連携協定」を締結するのは、瀬戸内市・真庭市・新庄村に続いて4例目。また、生活協同組合が都道府県との「包括連携協定」を締結するのは全国で6例目、中四国では初となります。



平田理事長と伊原木知事



おかやまコープの宅配車両400台に貼っているステッカー

なんでも相談窓口にどうぞ

岡山医療生協

協立病院内に「患者なんでも相談窓口」があります。以前は、扉を閉じていましたが、オープンにして誰でも立ち寄りやすくしました。少し本も置き、インターネットで検索もできるようにパソコンも設置しています。昨年度は、536件のご相談がありました。特に、相談の種類では、介護保険の申請・利用方法や、身体障害手続き、無料低額診療など医療・福祉・年金・社会保障制度に関することが一番多く（36%）、相談員（ソーシャルワーカー）につないでいます。続いて、受診・入院相談・（12%）、苦情（11%）等でした。

また、地域から困った時にどこに相談したら良いかわからないとの声から、今年、9月からは岡山医療生活協同組合「なんでも相談窓口開設」を設置しました。地域にお知らせするため、カード（困ったときのなんでも相談窓口開設）を作成し、医療生協の組合員さんや地域の方々にお配りしています。暮らしの中で「困ったこと」など、困ったときのまちの相談室として、連携施設及び各専門分野担当者と協力し、適切にサポートしていきたいと考えています。



地域と連携しての取り組み

倉敷医療生協

倉敷医療生協では自治体や他法人と連携し、高齢者支援、生活困難支援、子育て支援活動に取り組んでおり、また、地域で健康習慣を広める活動もすすめています。

その活動は、倉敷市が開催する地域毎のミニ健康展での健康チェックの連携9ヶ所、倉敷市健康福祉まつりでの健康チェック担当、倉敷市や町内会等と協力して玉島西小学校区での地域防災マップづくり、地域サロンでの各種講座の担当、子ども食堂の設置、社会福祉法人との連携で3世代交流サロンの開催、NPO法人と連携しての支え合い活動等、多岐に渡ります。

健康習慣を広める取り組みとして、2ヶ月余（9～11月）にわたり県西部域15ヶ所で健康まつりを開催しています。県生協連が主催するヘルスチャレンジには、自治体や小学校とも一緒に取り組んでいます。



子ども食堂



地域サロン

保健大学受講し、地域での健康づくりの担い手に

津山医療生協

第24回保健大学が開講しました。毎年9月から10月の2ヶ月にわたり組合員さんに健康づくりをより勉強してもらおうと開かれているものです。

血圧・体脂肪・尿検査を自分で測れるように看護師から指導を受けたり、1日の塩分摂取量について医師から話を聞くなど少し専門的な学習をします。今回は津山市の高齢介護課に来ていただいて地域包括ケアの話の聞きました。笑いヨガのインストラクターから手ほどきを受けたり、終活についてみんな

で考えるなど、7回の講座を無事終え全員が最後の修了式を迎えました。

修了式の歓談会では、「楽しく健康づくりのことを学べた。」「家族や周りの人の健康も考えるようになった。」などの感想が述べられました。修了者全員が今後は地域で健康づくりのお手伝いをする医療生協の保健委員に登録しました。



クリーンキャンパスの取組み

岡山大学生協

岡山大学生協では生協学生委員会の主催で、岡山大学のキャンパス内清掃を実施しました。10月9日は鹿田キャンパスで約30名の参加、10月16日は津島キャンパスで約80名の学生組合員に参加して頂きました。当日は短い時間でしたが、空き缶・ペットボトルなど小さなゴミからビニール傘など粗大ゴミの回収、生協店舗前のログテーブルの清掃など、学内清掃を通じて組合員と

学内環境を美化していくことの大切さを考えました。

また清掃活動終了後はグループに分かれて、模擬工場経営を通じ、生産と環境対策のバランスや環境問題への気づきを高める事を目的とした「エコプラントゲーム」というゲーム大会も実施しました。



地域福祉を学ぶ連続講座を開催



グリーンコープ生協おかやま

今年度、グリーンコープ生協おかやまでは地域福祉について、組合員が学ぶことができ、考えることができる機会を増やすための連続講座を開催しています。

私たちの日々の暮らしの中で意識している困りごと、普段はなかなか考える余裕がないものです。そんな時、ちょっと立ち止まって考えてみると見えてくることがあります。地域の中での困りごとなど、ひとりでは出来な

いことも、みんなで力を合わせれば、助け合う仕組みを作ることができ、誰もがその恩恵を受けることができると考えています。

組合員みんなの気持ちをどんどん出し合って、グリーンコープらしい福祉の取り組みをカタチに行きたいと考えています。



「就実生活協同組合」オープン!



就実生協

9月28日、県内で2番目の大学生協、「就実生協」がオープン、事業開始を迎えました。当日は学内にてオープニングセレモニーが行われ、学園理事長、学長など来賓の皆様から祝辞を頂き、参加の教職員、学生組合員とともに就実生協の門出を祝いました。

就実生協は当面2つの食堂とカフェ、ショップの4つの店舗を運営していきます。6月17日に開催された創立総会から急ピッチで開業準備をすすめ、この日を迎えることができました。リニューアルされた店舗や商品(メニュー)に、利用の学生からはさっそく驚きやよろこびの声も上がっていました。また、オープニングイベントとして生協学生部(seedS)による「ガラポン大会」も実施され、

たいへん賑わっていました。

ひとまず事業開始を迎えたとはいえ、大学生協にとってはもっとも重要な次年度新学期がさっそくやって来ます。就実大学・就実短期大学の構成員の生活がより豊かなものとなるように、みなさまの引き続きのご支援をよろしくお願い致します。



就実生協が設立され、10月7日に岡山県生協連に加盟しました。県内の加盟生協は11生協となり、大学生協は岡山大学生協に続いて2つ目の生協となりました。

第32回中国四国生協・行政合同会議が 島根県で開催されました



9月1日（木）島根県松江市にて「住みやすい地域づくりに求められるこれからの連携」をテーマとして開催されました。

島根県溝口善兵衛県知事より、生協は地域で緊密な連携が進められ生活文化の向上に寄与している。人と人との関係が



希薄、疎遠となる中、人と人を結ぶ相互扶助組織として地域づくりの大きなパートナーとして期待していることの挨拶が行われました。

厚生労働省社会・援護局地域福祉課消費生活協同組合業務室金子雄一郎室長補佐より、熊本地震での物資支援や人の派遣に対する感謝。生協は各事業を通じての貢献や、高齢者や子育て世代の居場所づくりなど行われている。また行政と連携した見守り協定の締結が進められ、ひろく地域住民に対するたすけあいの取り組みや、地域のセーフティネットの一翼を担っている。暮らしを支える生協として、担い手の1つとして考えており、今後の地域づくりにつなげてほしいことなど挨拶が行なわれました。



行政報告として消費者庁消費者教育・地方協力課 平田繁成政策調査員から、消費者被害の総額 6.1 兆円が損失として出ている。そのうち 1/3 が高齢者。またスマートフォンでの契約トラブルが増加。改正消費者安全法にふれ見守りネットワークを進めていくために、生協へも協力をお願いすることの報告が行われました。

生活協同組合おかやまコープ竹田芳子理事より「地域社会づくりへの参加の取り組み」をテーマとして、岡山県との包括連携協定の締結、商品での地域への貢献、地域見守り活動、生活支援サービスなどの取り組みについて報告。



生活協同組合とくしま生協多田道代副理事長より「子育て支援」と「ハッピーシリーズ」の取り組みをテーマとして子育てひろばの取り組み、見守り協定、ハッピーシリーズなど報告。

雲南市政策企画部地域振興課板持周治主査より「小規模多機能自治による住民主体のまちづくり」と題して雲南市が協同のまちづくりをめざして、地域自主組織づくりの取り組みや活動拠点の整備、鍋山地区の安心生活見守り事業や松笠地区の婚活隊などの事例を報告。

地域つながりセンター高橋令子代表より「おたがいさまの活動から地域のつながりへ」と題して「おたがいさま」の活動から、あったか地域づくり協議会への発展、安心して住み続けられる地域づくりをめざして、連携を広げてきた経過について報告。

協同組合協議会でコープフェスタに出展多くの方が参加！

コープフェスタ 2016 に協同組合コーナーとして協同組合連絡協議会が出展し、当日下津井から陸揚げされた生きた魚に、子どもたちに大好評となった漁連ブースやバケツ稲、松・杉・ヒノキなどそれぞれの特徴を生かした展示やクイズラリーを行い多くの方で賑わいました。実施したクイズラリーは 500 人分用意しましたが、早々と終了しました。協同組合間の協同の取り組みとして、各団体の取り組みに具体的に係っていき、理解を深めることを目的としました。



おかやまコープ主催 **コープフェスタ2016** 2万人の人たちで賑わい

3 医療生協も健康チェックコーナーで参加



9月24日コンベックス岡山にて、おかやまコープ主催コープフェスタ2016が開催され、全体で2万人の方が訪れ、終日賑わいました。

3医療生協は、健康チェックコーナーの運営を行い、多くの方が受けにられました。

今回は、骨密度測定、体力測定、足指力測定、すこしお生活、歩行バランスチェック、あいうべ体操、血圧・体脂肪測定を行い、スタンプラリーとして4つのコーナーを回ってもらいました。



第30回県消費者大会17団体190名の参加で開催

10月27日オルガホールにて第30回岡山県消費者大会を17団体190名の参加で開催しました。

講演では、「下流老人」の著者藤田孝典氏より「今社会で起こっていること～下流老人と貧困世代を中心に～」をテーマとしてお話頂きました。自ら関わってきたホームレスに陥った方の支援、ひとり親世帯の深刻さ、子どもの貧困など具体的に話され、現在の貧困は下流老人だけではなく、若者や子どもも含めてすべての年代で広がってきており、将来の展望が見いだせない時代となっている。貧困問題をとりくまなければ、持続可能な社会になっていかないことを



ほっとプラス代表 藤田孝典氏

指摘し、最後に下流老人も貧困世代も生むのは社会であり、ソーシャルアクションを続けることで『暮らしにくさ』は変えられることを話されました。

講演後は全員で医療生協による「すっきりはればれ体操」を行い、リフレッシュしました。

団体報告では、**JA岡山県女性組織協**

議会より、「地域とともに輝く私たちの取り組み」をテーマとして、若い世代フレッシュミズの活動や食農教育、地産地消、クッキングフェスタ、高齢者生活支援、生活習慣病予防、環境保全などの取り組みについて報告されました。

おかやま酪農業協同組合から「現在の酪農情勢と女性部活動」をテーマとして、岡山県の酪農の現状として、岡山は家族経営が主体となっており、乳牛の頭数がふえないと食べていけないこと、多額の投資が必要となっている。また、女性部の活動として畜舎美化の運動や乳質改善、消費拡大などの取り組みを行っていることについて報告されました。

おかやまコープから「おかやまコープの子育て支援」をテーマに、子育てひろば、子育てくらぶ「にこにこ」、はーとふるネットの取り組みやビジョンについて報告されました。

岡山県母親連絡会より大会決議案を提案し、拍手で確認しました。閉会挨拶を県消団連桐山代表幹事より行い、終了しました。アンケートでも講演や各団体報告ともに「よかった」との声が多数寄せられました。



全国の生協から熊本への支援が行なわれる



熊本地震における支援活動では、全国の生協から募金として 11 億 4000 万円が寄せられ、熊本県と大分県に届けられました。また厚生労働省から日本生協連に対して支援要請があり、全国から 21 生協のべ 168 人が支援物資の荷捌きやボランティアセンターの業務を行いました。

それ以外にも、食料や飲料など支援物資の提供（累計 325 品 71.5 万点）、炊き出し、引越し支援活動など、全国から多数の職員が入り支援活動を行いました。また、被害が大きかった益城町や熊本市では、災害弱者となる高齢者や障がい者などに対応するため、現地にコーディネーターが常駐し 20 生協のべ 264 人の介護職員を派遣し、入浴介助や食事配膳、見守り支援を行っています。

医療福祉生協では、看護師、歯科衛生士、医療ソーシャルワーカーなどのべ 653 名の方が健康チェックに参加しました。



3.11 を忘れない みやぎ生協から被災地・宮城のいまをお伝えします

新商店街にまちの盛衰がかかっている

写真提供：(株) 南三陸まちづくり未来



「新商店街にまちの盛衰がかかっている。絶対成功させなければならない」。(株) 南三陸まちづくり未来の三浦洋昭さんはそう決意を口にします。

2017 年春、南三陸町のかさ上げした市街地に「南三陸さんさん商店街」(志津川)と「伊里前復幸商店街」(歌津)、二つの商業地がオープンします。どちらも南三陸まちづくり未来が管理するテナント型施設で、まちの賑わい回復の拠点として期待されています。

震災で市街地を失った南三陸町の商業者はいち早く復興市や仮設の商店街を立ち上げ、地元の復興に大きな役割を果たしてきました。「キラキラ丼」による地元海産物の販売、買い物に訪れる地域住民の交流の場づくり、全国への情報発信。また商店街がボランティアの活動拠点となったことで、南三陸町へ「ターンする若い人も増えました。5 年間の仮設店舗で得た経験や人とのつながりは、新しい商店街にも引き継がれます。

「多くの人々が訪れて復興を支援し、再び観光に来てくれる流れができました。商店街も行政や観光協会、地元産業団体、旅行事業者と連携し、リピーターを確保していきます」。

さんさん商店街には 28 店舗、伊里前復幸商店街には 8 店舗が出店し、周囲の商業地や交流施設とともに一体感を持った観光・商業エリアを形成していく予定です。今年 10 月末には三陸道が志津川インターチェンジまで延び、仙台との距離が短縮します。一帯を道の駅として整備し、野菜や海産物の産直施設を設ける計画もあります。

飲食店や菓子店、理美容店、野菜市など「日常と非日常」が混在する商店街は、地域住民と観光客、まちと外部をつなぐ窓口になることでしょう。

新商店街が発足しても、復興工事関係者の撤退など、明るい材料ばかりではありません。三浦さんも「店主さんたちは不安でいっぱいのはず」と言います。しかしいまは前に進むしかありません。「商店街の本来の魅力にさらに磨きをかけ、地域にも全国のお客さまにもどんどん情報を発信していきます」。

地域再生のシンボルである新商店街を成功に導くため、事業者たちの奮闘が続きます。